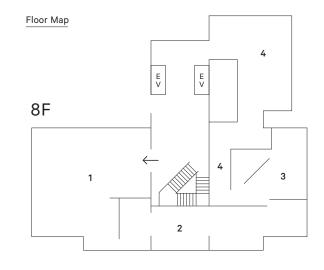


2022.7.16 (SAT) ——— 9.4 (SUN)

- 会期中展示替えがあります。 [前期] 7月16日(土)-8月14日(日) [後期] 8月16日(火)-9月4日(日)
- サイズは縦×横、または高さ×幅×奥行です。
- * 都合により出品作品を変更する場合があります。
- **展示はリストの順とは異なる場合があります。

出品リスト

千葉市美術館 Chiba City Museum of Art



8F

中﨑 诱

«stripes_post» 2021年 ミクストメディア 70.0×55.0×14.0cm 作家蔵

«stripes_post» 2022年 写直 51.5×72.8cm 作家蔵 撮影:石川卓磨

《地雷注意!》 2002年 キャンバス、油彩、アクリル絵具 161.0×130.0cm 作家蔵

《縁を守れ》 2002年 キャンバス、アクリル絵具 161.0×120.0cm 作家蔵

《山の向こうで見ている》 2022年 ミクストメディア サイズ可変 作家蔵

《Poolside Snowman / drawing #2》 アクリル絵具 39.5×30.6cm 作家蔵

《Poolside Snowman / drawing #5》 2021年 アクリル絵具、ペン 26.0×14.5cm 作家蔵

《Mountain or House / drawing》 2021年 アクリル絵具、ペン、鉛筆 30.6×39.5cm 作家蔵

《Beauty is in the eye of the beholder. 2021年(2022年再構成) ミクストメディア 54.0×150.0×28.0cm 作家蔵

《red / blue》 2022年 ミクストメディア 作家蔵

《Datepainting On KAWARA #2》 2018年 陶器、磁器 作家蔵

《Datepainting On KAWARA #3》 2018年 陶器、磁器 作家蔵

《Datepainting On KAWARA #4》 2018年 陶器、磁器 作家蔵

《Green Border Landscape #1》 2021年 ミクストメディア 作家蔵

《Green Border Landscape #2》 2021年 ミクストメディア サイズ可変 作家蔵

«to home, from home» 2011年 写真 2枚組 作家蔵

《book #1》 2022年 ミクストメディア 71.0×78.5×47.0cm 作家蔵

(book #2) 2022年 ミクストメディア 71.0×78.5×47.0cm 作家蔵

《あいまいな海のスウェーター》 1961-62年 水彩 (デカルコマニー)・インク・ コラージュ、紙

赤瀬川原平

38.1×29.2cm 千葉市美術館蔵

サトウ画廊コレクション

《あいまいな海のスカート》 1961-62年 水彩 (デカルコマニー)・インク・ コラージュ、紙 39.6×27.4cm 千葉市美術館蔵 サトウ画廊コレクション

渓斎英泉 《鯉の滝登り打掛の花魁》 天保期 (1830-44) 大判藍摺竪2枚続(掛物絵) 72.7×24.9cm 千葉市美術館蔵 今中コレクション

《鯉の滝登り打掛の花魁》 天保期(1830-44) 大判錦絵竪2枚続(掛物絵) 73.1×25.8cm 千葉市美術館蔵 今中コレクション

荒川修作 《無題の形成 No.3》 1961-62年 油彩・アクリル・鉛筆、キャンバス 165.0×246.5cm 千葉市美術館蔵

篠原有司男 《思考するマルセル・デュシャン》 1965年 油彩・コラージュ、キャンバス 161.0×125.5cm 千葉市美術館蔵

マルセル・デュシャン 《完成大ガラス》 1965年 カラーエッチング・アクアチント、和紙 35.6×24.0cm 千葉市美術館蔵

《大ガラス (第1ステート)》 1965年

エッチング、和紙 35.6×24.0cm 千葉市美術館蔵

《大ガラス (第2ステート)》 1965年 エッチング・アクアチント、和紙 35.0×22.5cm 千葉市美術館蔵

瀧口修造(編) 『マルセル・デュシャン語録』 版画・マルチプル・本 (箱入り) 一般財団法人草月会蔵 (千葉市美術館寄託)

歌川国貞 《花魁図 (大文字屋一元)》 天保期 (1830-44) 絹本着色1幅 108.0×31.8cm 千葉市美術館蔵 (千葉市美術館寄託)

多々羅義雄 《房州布良ヲ写ス》 大正11年(1922)頃 油彩、カンヴァス 90.0×115.0cm 千葉市美術館蔵

宇佐美圭司 《もう一つの世界地図》 インク、紙 111.5×171.5cm 千葉市美術館蔵

立石紘一 《ハン》 1963年 ガッシュ、紙 38.9×28.5cm 千葉市美術館蔵 サトウ画廊コレクション

鈴木春信 《見立那須与一 屋島の合戦》 明和3-4年(1766-67)頃 中判錦絵2枚続のうち右 28.8×20.8cm 個人蔵(千葉市美術館寄託) 前期展示

《六玉川 調布の玉川》 明和4年(1767)頃 中判錦絵 28.2×20.9cm 千葉市美術館蔵 後期展示 桂ゆき 《自画像 (娘時代)》 1985年 布 (紅絹)・綿、パネル 169.0×62.0×14.5cm 千葉市美術館蔵 椿貞雄 《春夏秋冬極楽図》 昭和11年 (1936) 紙本墨画淡彩1面 66.0×161.0cm 千葉市美術館蔵

若林奮

《Sunrise, Sunset (The Ground)》 1976年 木・鉄・鉛・ガッシュ 23.0×70.0×48.0cm 千葉市美術館蔵

工藤哲巳 《あなたの肖像》 1965年 樹脂・ワックス・鏡・雑誌、板・他 100.0×80.0×10.0cm 千葉市美術館蔵

織田一磨 《東京風景 日本橋》 大正5年(1916) 石版単色摺 28.8×39.3cm 千葉市美術館蔵

《東京風景 上野広小路》 大正5年(1916) 石版多色摺 40.1×28.5cm 千葉市美術館蔵

《東京風景 上野之桜》 大正6年(1917) 石版多色摺 40.3×27.1cm 千葉市美術館蔵

葛飾北斎 『富嶽百景』 天保5-7年 (1834-36) 頃 墨摺絵本3冊 各22.6×15.6cm 千葉市美術館蔵

無縁寺心澄 《千葉中時計台》 昭和2-20年 (1927-45)頃 水彩、紙 58.7×77.1cm 千葉市美術館蔵 (白井三郎氏寄贈)

《妙見様のサーカス》 水彩、紙 59.0×77.5cm 千葉市美術館蔵 (白井三郎氏寄贈)

《県庁前道路》 昭和12年 (1937) 水彩、紙 58.5×76.5cm 千葉市美術館蔵 (白井三郎氏寄贈)

清水九兵衞 《WIG 69》 1986年 アルミニウム (着彩) 38.0×55.5×11.5cm 個人蔵 (千葉市美術館寄託)

八木正

《中間子》 1980年 木・ラッカー 210.0×30.0×3.6cm 千葉市美術館蔵

デニス・オッペンハイム 《Parallel Stress》 1970年 写真・コラージュ、ボード 216.0×152.4cm 千葉市美術館蔵

杉本博司 《South Pacific Ocean, Maraenui》 1990年 ゼラチン・シルバー・プリント 42.2×53.8cm 千葉市美術館蔵

資料 ジョージ・ステンフリ 《カダケス (スペイン) のマルセル・ デュシャン》 1962年 写真 千葉市美術館蔵

2

ミヤケマイ

《救世主》 2022年 ミクストメディア 作家蔵

《エデンの西》 2022年 ミクストメディア 個人蔵/作家蔵

《エデンの東》 2019年/ 2022年 本展展示構成に 際して改題 ミクストメディア 作家蔵

《カミヲハル》 2015-2019年/ 2022年 本展展示 構成に際して改題 ミクストメディア 作家蔵

伊藤若冲 《鸚鵡図》 宝暦 (1751-64)後期~ 明和 (1764-72)期頃 絹本着色 1幅 107.6×49.1cm 千葉市美術館蔵 前期展示

《鷹図》 宝暦年間 (1751-64) 中期頃 紙本墨画 1幅 摘水軒記念文化振興財団蔵 (千葉市美術館寄託) 後期展示

田中一村 《椿図屏風》 昭和6年 (1931) 絹本金地着色 2曲1双のうち 169.0×168.0cm 千葉市美術館蔵 北代 省三 《スペース・モデュレーター》 1952年,1994年再制作 木 (檜)・和紙・金具・ネジ 180.0×160.0×130.0cm 千葉市美術館蔵

3

清水裕貴

清水裕貴 《あなたはここにいない》 2022年 写真 作家蔵

-----ジョルジュ・ビゴー 《稲毛海岸》 明治36年 (1903) 油彩、カンヴァス 45.0×90.0cm 千葉市美術館蔵

4

津田道子

《白亜の回廊》 2022年 インスタレーション/カメラ、 プログラム、モニタ、シルクスクリーン 作家蔵

《白亜の配置》 2022年 インスタレーション/ イラストレーションボード 作家蔵

《展示ケースの身振り》 2022年 映像 2分38秒 作家蔵

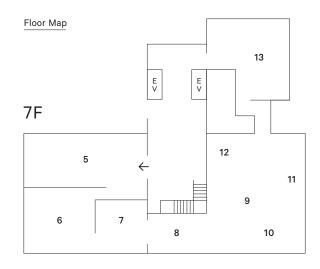
《ガラスケースの配置》 2022年 映像 5分36秒 作家蔵

《回廊と壁》 2022年 インスタレーション/カメラ、 プログラム、プロジェクター 作家蔵

《空旅談義》 2022年 インスタレーション/音 30分、机、 紙、粘土 作家蔵

《空旅する手》 2022年 映像 5分50秒 作家蔵

恩地 孝四郎 《白亜 (蘇州所見)》 昭和 15年 (1940) 木版多色摺、紙 84.4×60.0cm 千葉市美術館蔵 『空旅抒情』(6点組) 昭和13年 (1938)頃 木版多色摺、紙 各41.8×40.8cm 千葉市美術館蔵



7F

5

目 [mé]

《Life Scaper》 2021 年 ミクストメディア 72.0×57.0×5.5cm

《Reference Scaper A》

2021 年 ラムダプリント 96.0×142.5×4.5 cm(額サイズ) 作家蔵/ Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

《Reference Scaper B》 2021 年 ラムダプリント 70.5×105.0×4.0 cm(額サイズ) 作家蔵/ Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

《Reference Scaper C》 2021 年 ラムダプリント 70.5×105.0×4.0 cm(額サイズ) 作家蔵/ Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

《Reference Scaper D》 2021 年 ラムダプリント 70.5×105.0×4.0 cm(額サイズ) 作家蔵/ Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

《Reference Scaper E》 2021 年 ラムダプリント 70.5×105.0×4.0 cm(額サイズ) 作家蔵/ Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

《Acrylic gas T-1#17》 2021 年 ミクストメディア 170.0×170.0×19.0 cm 札幌宮の森美術館 《アクリルガス》 2018年 樹脂、アクリル他 170.0×170.0×19.0cm

千葉市美術館蔵

小川信治

6

《マルゲリータ・ポルティナーリ》 2020年 油彩、カンヴァス 4点 60.0×41.0×2.1cm、 60.0×41.0×2.1cm、 27.5×22.1×2.1cm、

27.5×22.1×2.1cm 作家蔵

《マリア・ポルティナーリ》 2021 年 油彩、カンヴァス 4点 60.0×55.0×2.0cm、 60.0×55.0×2.0cm、 33.5×24.0×1.9cm、 33.5×24.0×1.9cm 個人蔵

《ドローイング》 作家蔵

《ストラスブールの泉》 2022 年 ガッシュ・水彩・筆ペン、紙 作家蔵

ベストラスプール》 2015 年 鉛筆、紙 109.8×149.8cm 千葉市美術館蔵

7 带雨

華雪

《日》 2016-22 年 墨・鉛筆・絵具・コーヒー・ワイン・口紅、 紙・布 作家蔵

《一》 2022年 膠・煤・墨、紙 作家蔵

河原温 《I Got Up》 1970 年 絵はがき(20 枚組) 各 10.3×14.5cm 千葉市美術館蔵

《JUNE 2,1985》 1985 年 リキテックス、カンヴァス 他 25.4×33.0cm 千葉市美術館蔵

《JUNE 3,1985》 1985 年 リキテックス、カンヴァス 他 25.4×33.0cm 千葉市美術館蔵

《JUNE 4,1985》 1985 年 リキテックス、カンヴァス 他 25.4×33.0cm 千葉市美術館蔵

《JUNE 5,1985》 1985 年 リキテックス、カンヴァス 他 25.4×33.0cm 千葉市美術館蔵

《JUNE 6,1985》 1985 年 リキテックス、カンヴァス 他 25.4×33.0cm 千葉市美術館蔵

《JUNE 7,1985》 1985 年 リキテックス、カンヴァス 他 25.4×33.0cm 千葉市美術館蔵

《JUNE 8,1985》 1985 年 リキテックス、カンヴァス 他 25.4×33.0cm 千葉市美術館蔵

田能村竹田 《涼月談心図》 天保 3、4 年 (1832,33) 頃 絹本墨画淡彩 1 幅 123.5×40.1cm 旧ピーター・ドラッカー 山荘コレクション (千葉市美術館寄託) 前期展示

渡辺崋山 《田園雑興詩画 第十二「冬日」》 天保 11 年(1840) 紙本墨画淡彩 1 幅(絵)、 紙本墨書 1 面(詩) 26.4×45.6cm(絵)、26.5×28.5cm(詩) 嬉遊会コレクション(千葉市美術館寄託) 後期展示

。 きぐう編集室

《日常を編む》 2022 年 ミクストメディア

9

作家蔵

Mitosaya 薬草園蒸留所

《樽式蒸留器》 2022 年 作家蔵

《寄せ集めの根っこ》 2022 年 作家蔵

《桜のアマーロ》 2022 年 作家蔵

《松葉のハードサイダー》 2022 年 作家蔵 大岡 雲峰 『草木錦葉集』 文政 12 年 (1827) 序 木版墨摺 7 冊 各 26.6×18.3cm 千葉市美術館蔵 ラヴィッツコレクション

今尾 景年 『景年花鳥画譜』春/部 明治 24-25 年 (1891-92) 彩色摺絵本 4 冊のうち 各 37.0×25.7cm 千葉市美術館蔵 ラヴィッツコレクション

近藤有芳 『大成真写譜』 明治 21 年(1888)刊 木版多色摺 2 冊のうち 千葉市美術館蔵 ラヴィッツコレクション

10

山野英之

《クソバッジ》 2022 年 ミクストメディア 作家蔵

11

井口直人×岩沢兄弟

井口直人 《COPY》 2015-2022 年 ミクストメディア さふらん生活園蔵

井口直人 × 岩沢兄弟 《複写真機 <!-- コピーーーー機 -->》 2022 年 映像インスタレーション (アプリケーション制作 新井恒陽) 作家蔵

田中 抱二 《写生帖、縮図ほか資料一式》 江戸時代末〜明治時代中期 縮図類、下絵類、蔵書ほかより写生帖 30冊 個人蔵(千葉市美術館寄託)

前川千帆 《写生帖》 大正 12 年 (1923)~ 昭和 33 年 (1958) 頃 写生帖 30 冊 各 22.6×15.6cm 千葉市美術館蔵

1<u>.</u> 1 /1/

12

井上尚子

《記憶の鼻腔》 2022 年 インスタレーション 《梱眠 ― 夢のにおい ―》 2022 年 千葉市美術館展覧会カタログ、茶紙、 ガムテープ

河田小龍 《花鳥図》 19 世紀

絹本着色 3幅 各 127.1×53.9cm 千葉市美術館蔵(山田裕嗣氏寄贈)

小川(菊田) 栄羽 《麝香猫図》 江戸時代中期 絹本着色 1幅 109.5×49.7cm 摘水軒記念文化振興財団蔵 (千葉市美術館寄託)

歌川豊国 《海女図》 文化(1804-18)末期~ 文政(1818-30)初期頃 絹本着色 双幅 各 62.0×55.4cm 千葉市美術館蔵

狩野 永悳立信 《三酸図》 江戸時代末〜明治時代初 絹本墨画淡彩 1幅 126.0×49.7cm 千葉市美術館蔵 谷信ーコレクション (折笠渓子氏春贈)

村瀬太乙 《利休居士図》 紙本墨画 1幅 123.9×30.5cm 旧ピーター・ドラッカー山荘コレクション(千葉市美術館客託)

13

文化屋雑貨店

《とある夏休みの雑貨店》 2022 年 ミクストメディア 作家蔵

月岡 芳年 《風俗三十二相 かわゆらしさう 明治十年以来内室の風俗》 明治 21 年(1888) 大判錦絵 37.5×25.6cm 千葉市美術館蔵

《風俗三十二相 いたさう 寛政年間女郎の風俗》 明治 21 年 (1888) 大判錦絵 37.5×25.7cm 千葉市美術館蔵

《風俗三十二相 にくらしさう 安政年間名古屋嬢之風俗》 明治21年(1888) 大判錦絵 37.5×25.8cm 千葉市美術館蔵

《風俗三十二相 しだらなささう 寛政年間京都藝子風俗》 明治21年(1888) 大判錦絵 37.5×25.9cm 千葉市美術館蔵 三代歌川豊国・歌川芳虎 (錦昇堂版役者大首絵) 大判錦絵 60 図刊行のうち 24 点 各約 36.2×24.2cm 千葉市美術館蔵

歌川 豊国 (三代) 《三代目尾上菊五郎の那迦犀那尊者》 元治元年 (1864)

《十一代目守田勘弥の斎藤太郎左衛門》 万延元年(1860)

《十三代目市村羽左衛門の鳶の 者御祭佐七》 文久3年 (1863)

《三代目尾上菊五郎の天竺徳兵衛》 万延元年(1860)3月

《四代目中村歌右衛門の舎人松王丸》 文久3年(1863)

《揚巻の助六(八代目)市川団十郎 三升》 万延元年(1860)3月

《五代目市川海老蔵の武蔵坊弁慶》 万延元年 (1860)

《五代目市川団十郎 景清》 文久3年(1863)

《市川海老蔵の碓井荒太郎貞光 [市川海老蔵の暫]》 文久3年 (1863)

《三代目沢村宗十郎の大星由良之助良雄》 文久 3 年(1863)

《初代市川鰕十郎の浅間左衛門照連》 文久3年(1863)

《五代目松本幸四郎の幡随長兵衛》 文久3年(1863)

《二代目嵐雛助の石川五右衛門》 文久3年(1863)

《三代目嵐璃寛の漁師浪六》 万延元年(1860)

《三代目沢村田之助の長尾の 息女八重垣姫》 万延元年 (1860)

《三代目瀬川菊之丞の葛の葉狐》 文久3年(1863)

《三代目岩井粂三郎の八百屋於七》 万延元年(1860)

《五代目沢村宗十郎の菅丞相》 万延元年(1860)

《三代目市川九蔵の刀鍛冶団九郎》 文久3年(1863)

歌川 芳虎 《三代目大谷友右衛門の安達元右衛門》 文久 3 年(1863)

《六代目坂東三津五郎の

新洞左衛門娘夕しで》 文久 2 年 (1862)

《四代目市川小団次の武智十兵衛光秀》 文久 2 年 (1862)

《市川福太郎の油屋娘於染》 文久2年(1862)

《五代目坂東彦三郎薪水の 高須遊君地獄太夫染衣》 慶応元年(1865)

森 一鳳 《象図屏風》 江戸時代末期 紙本墨画 2 曲 1 隻屏風 110.0×112.6cm 千葉市美術館蔵

渡辺 秀詮 《虎図》 江戸時代中期~後期 紙 本 着 色 1 幅 129.8×28.5cm 千葉市美術館蔵 前期展示

諸葛監 《虎図》 宝暦~天明期(1751-89)頃 絹本着色 1幅 89.4×44.4cm 千葉市美術館蔵 後期展示

渡辺 小華 《牡丹花下戯猫之図》 明治 10 年代 絹本着色 1幅 108.2×41.2cm 千葉市美術館蔵 嬉遊会コレクション (奇贈)

河鍋 暁女 《絵手本習作》 明治(1868-1912)前期 紙本着色 1巻 27.8×347.6cm 摘水軒記念文化振興財団蔵 (千葉市美術館寄託)

渡辺 崋山 《佐藤一斎像画稿 第三〜第七》 文政 4 年 (1821) 頃 紙本墨画淡彩 5 幅のうち 39.1×20.7cm (第三) / 38.9×20.4cm (第四) / 前期展示 39.2×19.5cm (第五) / 39.0×20.7cm (第六) / 後期展示 千葉市美術館蔵 西谷コレクション (寄贈)

1 中﨑 透

(8F)

5 | 目 [mé]

(7F)

美術家。1976年茨城生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科博士 後期課程満期単位取得退学。現在、茨城県水戸市を拠点に活動。看板 をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーショ ンなど、形式を特定せず制作を展開している。展覧会多数。

2006年末より「Nadegata Instant Party」を結成し、ユニットとしても活動。2007年末より「遊戯室 (中﨑透+遠藤水城)」を設立し、運営に携わる。2011年よりプロジェクトFUKUSHIMA!に参加、主に美術部門のディレクションを担当。

アーティスト・荒神明香、ディレクター・南川憲二、インストーラー・増井宏文を中心とする現代アートチーム。個々の技術や適性を活かすチーム・クリエイションのもと、特定の手法やジャンルにこだわらず展示空間や観客を含めた状況/導線を重視し、果てしなく不確かな現実世界をわたしたちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。

2 | ミヤケマイ

(8F)

6 | 小川信治

(7F)

美術家。日本の伝統的な美術や工芸の繊細さや奥深さに独自のエスプリを加え、過去・現在・未来をシームレスにつなげながら、ものごとの本質や表現の普遍性を問い続ける。媒体を問わない表現方法を用いて骨董・工芸・現代美術・デザイン、文芸など既存の区分を飛び越え、サイトスペシフィックなインタレーションを展開している。

主な展覧会は、東アジア文化都市2018金沢「変容する家」(金沢21世紀 美術館、2018年)、「ことばのかたちかたちのことば」(神奈川県民ホールギャ ラリー、2021年)など。2017年、4冊目の作品集『蝙蝠』を上梓。京都芸 術大学美術工芸学科特任教授。 画家。「世界とは何か」をテーマに、時間と空間の構造や人間の意識とのかかわりを描いた超細密な油彩画、鉛筆画、コラージュ、映像作品などを手がける。

主な展覧会に「Shinji Ogawa - I Enter Every Reality」(ポーランド・クラクフ美術館、2019-20年)、「小川信治展一あなた以外の世界のすべて」(千葉市美術館、2016年)、「線の迷宮II一鉛筆と黒鉛の旋律一」(目黒区美術館、2007年)、「小川信治展一干渉する世界」(国立国際美術館、2006年)、「小川信治展一Souvenir/Souverain」(豊田市美術館、2002年)などがある。

3 | 清水裕貴

(8F)

7 | 華雪

(7F)

1984年千葉県生まれ。武蔵野美術大学映像学科卒。風景写真を撮りながら土地の過去や伝説をリサーチし、物語を立ち上げ、写真と文章で表現している。2011年1wallグランプリ受賞。2016年三木淳賞受賞。Nikonサロン、Kanzan gallery、nap gallery、PGIなどで作品を発表。2021年、神谷伝兵衛稲毛別荘、千葉市美術館エントランスギャラリー、千の葉芸術祭で作品発表。2018年から小説の執筆をはじめ、新潮社のR-18文学賞大賞受賞。2019年『ここは夜の水のほとり』(新潮社)、2022年『花盛りの椅子』(集英社)を出版。

書家。1975年、京都府生まれ。立命館大学文学部哲学科心理学専攻卒業。1992年より個展を中心に活動。幼い頃に漢文学者・白川静の漢字字典に触れたことで漢字のなりたちや意味に興味を持ち、文字の成り立ちを綿密にリサーチし、現代の事象との交錯を漢字一文字として表現する作品づくりに取り組む。また、文字を使った表現の可能性を探ることを主題に、国内外でワークショップを開催。刊行物に『ATO跡』(between the books)、『書の棲処』(赤々舎)など。『コレクション戦争×文学』(集英社)をはじめ、書籍の題字なども多く手掛ける。

4 | 津田道子

(8F)

8 | きぐう編集室

(7F)

アーティスト。インスタレーション、映像、パフォーマンスなど多様な形態で、鑑賞者の視線と動作によって不可視の存在を示唆する作品を制作。

主な個展は、「Trilogue」(TARO NASU、2020年)。主な展覧会に、「アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(プリスベン・QAGOMA、2021年)、「あいちトリエンナーレ2019:情の時代」(伊藤家住宅)がある。2013年東京藝術大学大学院映像研究科で博士号を取得。2019年ACCのグランティとしてニューヨークに滞在。2021年より金沢美術工芸大学准教授。Tokyo Contemporary Art Award 2022–2024 受賞。

〈わたし〉のことを〈わたしたち〉のことへ。毎日のことを、本のかたちで残すプロジェクト。一個人の日記を私家本として編纂し、発行している。2017年、東京から千葉に移り住んだことをきっかけに始動。主宰者である「わたし」は筆者と編集者の二役を兼ね、編集過程で自身の記録を他者のように扱い、編み直し、躓きがちな日々をケアする手立てにしている。これまでの発行物に『家を継ぎ接ぐ』(2019年)、『蛇は尾を噛む』(2020年)、『養生避難日記』(2022年)がある。

7F

2016年、千葉県大多喜町の閉園した薬草園跡に設立した蒸留所。自社で栽培する果樹や薬草・ハーブ、全国の信頼できるパートナーたちのつくる豊かな恵みを使い、発酵や蒸留という技術を用いてものづくりを行っている。「自然からの小さな発見をかたちにする」をモットーに、これまでに100種を超える蒸留酒、季節の恵みを閉じ込めた加工品、プロダクトなどをリリースしてきた。

オーナーの江口宏志は、ブックショップ「UTRECHT」元代表。蒸留家クリストフ・ケラーが営む、南ドイツのオー・ド・ヴィの蒸留所、Stählemühle (スティーレミューレ)で蒸留技術を学び、特別な一本をつくり続けている。

美術作家。匂いと記憶をテーマに体感型作品を制作。環境、文化、歴史を匂いから楽しむ「くんくんウォーク」を国内外の教育機関、美術館、植物館、公園、空港などで実施。2017年、ミュンヘンにあるMuseum Villa Stuck in Munich にて展覧会とワークショップ「The Library of Smell」(collaboration with 嗅覚研究者・白須未香+サウンドアーティスト・柴山拓郎)を開催。2017-2020年、WWFジャパンと全国の動物園とプログラム「においでめぐる動物園」を共同開発し、2019年グッドデザイン賞受賞。2005年文化庁芸術家在外研修員として、ニューヨークに滞在。

10 | 山野英之

(7F)

13 | 文化屋雑貨店

(7F)

(7F)

グラフィックデザイナー。デザイン事務所 TAKAIYAMA inc. 主宰。奈良県生まれ。書籍、広告、ブランドデザイン、建築サインなど、平面から空間まで、グラフィックデザインを軸に活動。

個人の制作として「クソバッジ」、「B.C.G」、「YAMANOMAX」、「オールフリー」、「UHS- α 」などがある。

1974年、長谷川義太郎が渋谷にて開店した雑貨販売企業。1946年千葉県富里生まれ、東京下町育ち。武蔵野美術大学商業デザイン科卒。装丁家・菊地信義氏のデザイン事務所に3年間勤務したのち、文化屋雑貨店を開店。雑貨店の草分け的存在として、デザイナーのポール・スミス氏など、国内外問わず多くのファンを持つ。2015年の閉店後も神出鬼没に活動を続けている。香港・文化屋雑貨店、(元)鶴谷洋服店(神保町)では、文化屋雑貨店オリジナル商品を送り込んでいる。

西舘朋央と佐久間磨 (Rondade) を中心に空間設計、什器 等の制作を提供するプロジェクト(サービス)。既存のフレー

ムワークに新たな関係性を見出し、自ら介在することで発

生する場の揺らぎをオブジェクト(サービス)として捉え直す

(new) service 「西舘朋央+Rondade]

11 | 井口直人×岩沢兄弟

(7F)

井口直人

1971年生まれ。三重県出身、名古屋市在住。1987年より、社会福祉法人さふらん会 さふらん生活園 (障害のある人たちが、モノづくりやアートなどさまざまな活動を通して自分らしさを表現し、まちのなかで緩やかつながる場所)所属。2003年から、コピー機に自らの顔を押しつけてプリントする「自撮り」を開始。ほどなくして近所のコンビニエンスストアでも朝夕同じ行為を行うようになり、現在まで続いている。主な参加グループ展は、「ルイジトコトナリー類似と異なり」(はじまりの美術館、2020年)、「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020」(横浜市役所、2020年)など。

岩沢兄弟

「モノ・コト・ヒトのおもしろたのしい関係」を合言葉に、人や組織の活動の足場となる拠点づくりを手掛けるクリエイターユニット。兄弟ともに千葉県千葉市生まれ。空間・家具などの立体物設計、デジタル・アナログ両方のツールを活用したコミュニケーション設計、オフィス空間からアートプロジェクトの拠点づくりまで幅広く活動している。千葉市美術館での「つくりかけラボ06 岩沢兄弟|キメラ遊物園」に続き、「瀬戸内国際芸術祭2022」では「鬼ヶ島ピカピカセンター」を制作。

西舘朋央

試み。

作家として展覧会を行うほか、雑誌や広告のグラフィックから店舗のアートやディスプレイなど、平面から空間まで、さまざまな媒体で活動する。2018年より千葉市にスタジオを構え、2021年、自身のプレゼンテーションの場として、gallery (NEW FOLKS) を立ち上げる。

Rondade (佐久間 磨)

さまざまなアートフォームを創造の初期衝動に立ち返り、既成の枠にとらわれないかたちと方法で表現することを目的に設立されたレーベル。本の形態はもちろんのこと、制作や販売方法も含めてユニークな出版を実践している。アートブック『冨井大裕:関係する | Interact 』、伊丹豪『photocopy』などを出版。

いわさわひとし(兄)

1974年生まれ。多摩美術大学建築学科卒業。空間デザイナー、車輪家具プロデューサー。岩沢兄弟の立体物デザイン担当。

いわさわたかし(弟)

1978年生まれ、武蔵野美術大学短期大学部生活デザイン学科卒業。ウェブサイト、映像、音響、よろずディレクション担当。